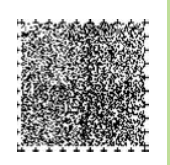




毎日ピアノの練習に励む木原竜登さん。

「南日本ジュニアピアノコンクール」で優秀賞を受賞！  
将来の夢はピアニストです。

# ありが ヒューマン ドキュメント



きはら たつと  
【木原 竜登さん】鹿児島市

## 盲学校の生徒として 初の優秀賞

毎夏、鹿児島市で開催される「南日本ジュニアピアノコンクール」で盲学校の生徒として初の優秀賞に輝いたのが、鹿児島盲学校中部部2年の木原竜登君。

生まれつき盲目だった木原君が、ピアノを始めたのは5歳のとき。楽譜を見ることができないため、CDなどで課題曲を何度も聞いて、耳で覚えて練習します。学校から帰ってすぐ、すぐにピアノへ直行し、平日は3〜4時間、休日は5〜6時間もピアノと向き合います。月2回のレッスンでは、先生から間違っている点を直してもらい、曲を仕上げていきます。

「常に2〜3曲を同時に練習。短めの曲で指づかいを、長めの曲で音楽的な要素を学ぶ。弾き込めば弾き込むほど、正確にタッチできるようになるし、自分の音もしっかり聞けるようになる」と話す木原君。普段練習するグランド・ピアノの横にはCDプレイヤーがあり、迷ったり、分からなくなったときはすぐにCDを聞いて音をチェックします。

「最近のお気に入りにはメンデルスゾーン。曲の中に盛り上がる部分があって弾いて楽しい。ベートーヴェンも大好き。逆にガンガン弾けないゆつたりめの曲だと、ちよっと眠くなってしま〜と笑います。」

## 緊張したコンクールで 力いっぱい演奏

南日本ジュニアピアノコンクールに初挑戦したのは小学3年生のとき。それ以来、毎年出場していますが、昨年は入選を逃し、大好きなピアノを「も

うやめたい」と思うほどの悔しさを味わいました。今大会では雪辱を果たすため、猛練習を積んできた木原君。今春は別の大会で入賞するまでになりました。

今回の第28回南日本ジュニアピアノコンクールには、小学3年から高校生まで480人が出場。木原君は予選でツェルニー作曲の「40番練習曲」より21番八短調に挑戦しました。「コンクールはいつも独特な雰囲気。普段練習しているピアノとは音色もタッチも違うし、会場によっては音の響き方も違うので、いろいろな意味で気を遣う。特に僕はすごく緊張するタイプ。今回の予選でもかなり緊張してしまっ、微妙な感じだった。」

そんな中でも、本選の173人に残り、本選では大好きなベートーヴェン作曲の「ソナタ第一番」の第1楽章のへ短調を堂々と披露しました。「本番前に妹と遊んで、普段通りの感じでコンクールに臨めたのが良かった。ミスタッチもあつたけれど、力いっぱい演奏できた。」

入賞は南日本新聞の紙面上で発表されるため、母親のさよりさんが新聞を読むのを心待ちにしています。「お



南日本ジュニアピアノコンクール「優秀賞」の賞状を胸に。

## みんなにきれいな音を 届けたい。

「ピアノの魅力は音色の美しさで弾く楽しさ。もっときれいな音が出せるようになりたい」と話す木原君。

「僕の目標は、ヴァン・クライバーン国際ピアノコンテストで優勝した、全員のピアニスト辻井伸行さん。彼のようにきれいな音を届けられるようなピアニストになるのが夢」。夢を実現するため、木原君は今日も大好きなピアノと向き合っています。

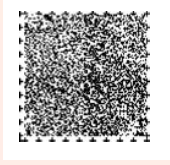


さまざまなピアノコンテストで評価を受ける木原竜登さん。



木原竜登さん

きはら・たつと。鹿児島盲学校  
中部部2年の13歳。学校で一番好きな授業は理科と社会。「特に理科の実験は不思議なことが分かっていく過程が楽しい」。



前向きに進むことで  
道は開く

鹿児島市に本社を持つ『ホシザキ南九株式会社』で、商品の見積もりを作成する管理課積算係の仕事に励む立元剛さん(29)。6年前、土木関係の仕事の中に右腕の肩から下を失った立元さんですが、全国障害者スポーツ大会への出場、ハートピア鹿児島で開催される体育大会の委員を務めるなど、公私ともに充実した日々を送っています。

「事故が起きたときは本当に辛かったですね。でも、基本的には前向きな性格なので、今の自分にできる仕事を見つけてはと考えるようになりました」。退院後、ポリテクセンター鹿児島で3カ月の職業訓練を受けたあと、パソコン関係の専門学校へ入学。パソコンの基本を学ぶと同時に、簿記の学校にも通い、いくつもの資格を取得しました。「事故に遭うまでは右利きだったので、日常生活を左手で過ごすのはきつかったですね。でも、今では昔よりも字がきれいに書けるようになって、周りの人からほめられるんですよ」。

就職活動は学校の求人や就職情報誌、障害者専用の就職ウェブサイト

「ウェブサイトを」

「ナ」などを通じて行いました。なかなか決まらず、履歴書を送った企業



たちもと たけし

ホシザキ南九株式会社 管理課 立元 剛さん

「たくさんの人に支えられて、仕事もプライベートも充実した毎日です」



明るい雰囲気の中ホシザキ南九株式会社の1階、ショールーム



インタビューでは少し緊張気味でした



真剣な表情でパソコンに向かう立元さん

ホシザキ南九株式会社

〒890-0056 鹿児島市下荒田4-41-11  
【URL】<http://www.hoshizaki.co.jp/h14/>

『ホシザキ南九』は、全自動製氷機や冷凍冷蔵庫、食器洗浄機など各種業務用厨房機器の販売・メンテナンスを手掛ける企業。鹿児島、大分、熊本、宮崎などに支店・営業所がある。

は数十社になりました。そんなときに、ハロ―ワーク主催の就職セミナーで出会ったのが、現在の会社でした。

たくさんの人との  
出会いに感謝

「そのときのセミナーで、障害者に理解のある企業という印象を受けました」という立元さん。履歴書を送付、三次試験を経て平成18年6月に入社しました。「僕の事は見積もりの作成。当初は障害者用のパソコンを使うことも考えましたが、左利き用にアレンジした普通機種で仕事をしています。最初は電話しながら、相手の要件をメモすることがうまくできなくて…。上司からいろいろなおアドバイスをもらいました」。

業務用厨房機器を扱うホシザキ南九には、自社製品と取り扱う他社の製品など数千種類があります。「同等機も含めた全商品を知らなければ、正確で迅速な見積もりもできません。覚えるのは大変ですが、いろいろな種類の調理器具があって、逆におもしろい。外食すると必ずカウンター席へ座り厨房をチェック、調理器具の使われ方を見るのが楽しいですね」。

4年前から卓球を始め、サークルの「土曜ナイトクラブ」の部長としても活躍。昨年は鹿児島県障害者雇用支援・激励大会で、就職活動や2年前に出場した全国障害者スポーツ大会について体験発表しました。「涙を流しながら話を聞いてくれた人から、『勇気づけられた』と言われたときは、僕も感動しました。障害者になって人生が180度変わったけれど、これからも周囲の人に感謝しながら毎日を明るく過ごしたい」。

